

FRaTacsは、床下の通風と床材の湿度調節により結露やカビの発生がほぼないものと推察します。

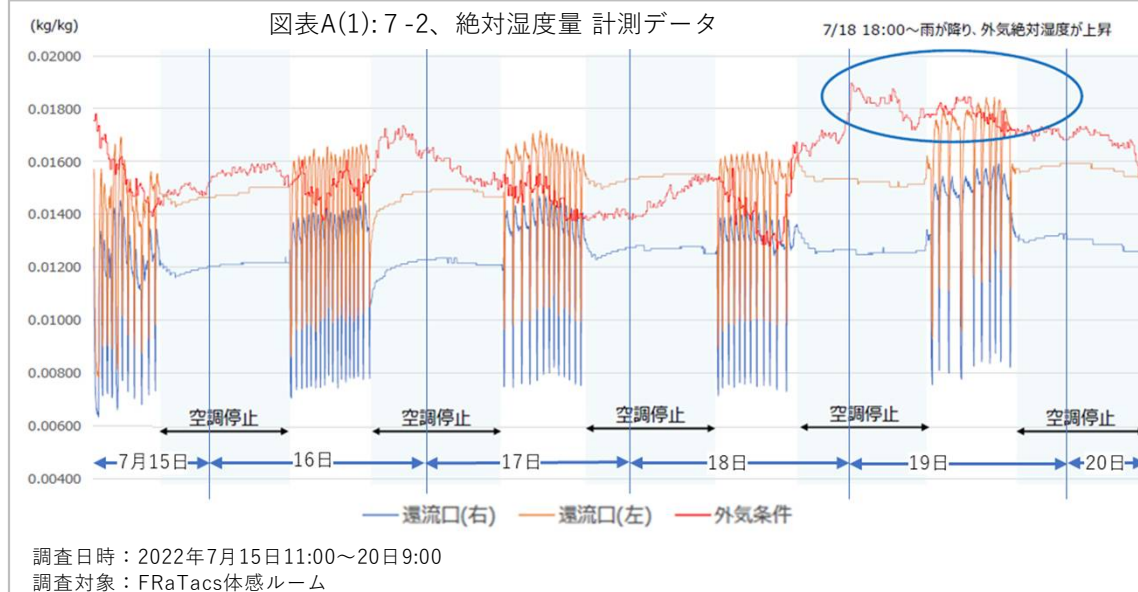
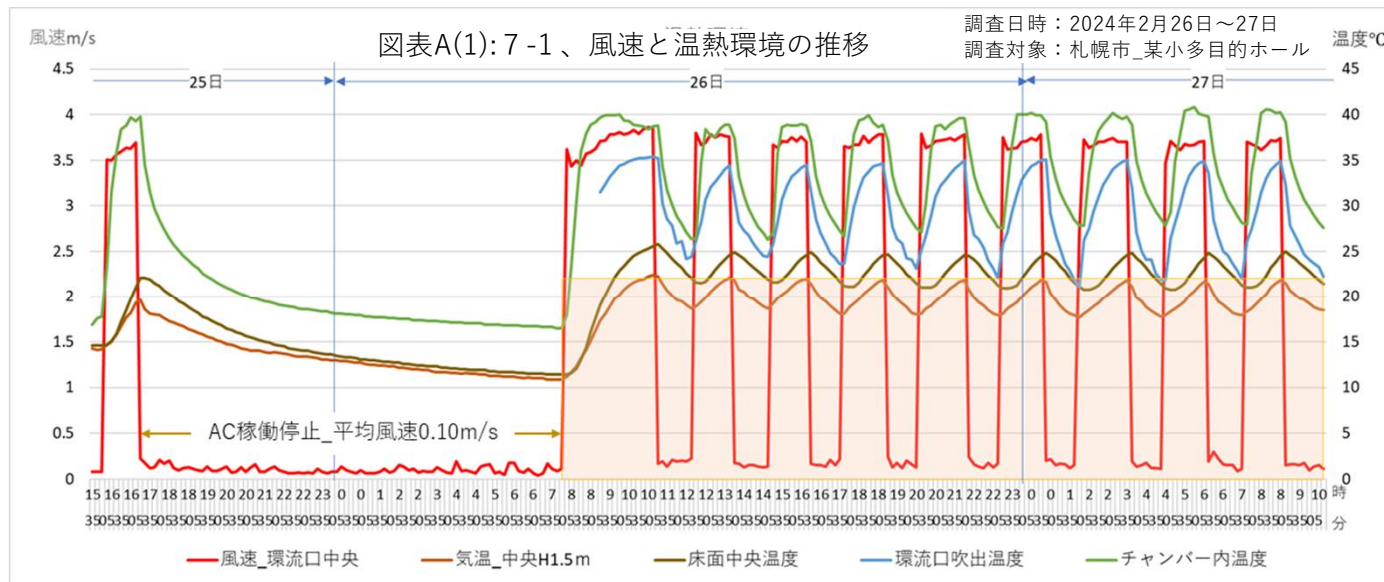
- ・結露が発生しない理由

①空調停止時も床下空間に気流(平均風速0.10m/s)があります(図表A(1):7-1)。気流は温度差のある空気が触れ合う時間を短くするので、結露の発生を防ぐ要因となります。

②空調停止時、外気の絶対湿度が上下しても床下空間の絶対湿度はほぼ一定に保たれるので、結露を防止できます(図表A(1): 7-2)。この現象は、床の木質材が吸湿・放湿して床下空間の絶対湿度を一定に制御する機能があることが要因であると考えられます。

- ### ・カビが発生しない理由

床下に発生源となる結露(水分)がないのでカビはほぼ発生しないと推察します。ただし、エアコンのフィルターに付着したホコリやドレンパンの水分が発生源となる可能性がありますので、これらの定期的な清掃管理を推奨します。



<考察>

外気温湿度データはアメダスデータのため、建物周囲外気条件としてのデータ信頼性は劣りますが、7月18日に雨が降り、外気湿度が上昇したが空調機停止時における床内の絶対湿度の上昇は見られなかった。よって、空調機停止時における結露の可能性は低いものと判断します。